

20周年記念生涯学習フェスティバル

事業委員長 佐藤ひとみ

今年度の生涯学習フェスティバルは、当協議会設立20周年を記念し、例年実施している会員発表に加え、著名人による記念講演も実施しました。12月の開催ということでお天気も心配されましたが、好天に恵まれ、たくさんの方の方にご参加いただくことができました。

オープニングを飾ったのは、「江別まっことええ北海道情報大賞」による、若さあふれるYOSAKOIソーラン舞です。会場が力強さと華やかさに包まれ、しばらく興奮が冷めやらない感じがしました。そんな空気を受け、当協議会会長・谷川幸雄が挨拶を行い、記念の1年の締めくくり行事としてのフェスティバルを、会場のみならず共有する心持ちになりました。来賓の江別市教育委員会教育長・月田様のご挨拶も頂戴し、フェスティバルに華を添えていただきました。



続いて行われた記念講演では、

江別市在住の版画家・絵本作家である手島圭三郎先生をお招きし、「ふるさとと人生」というテーマでお話していただきました。手島先生のお話は、心に響く珠玉の言葉がいくつもありません。「人生は限りなく美しく幸せ、それを発見できるかどうか、感じられるかどうかが大切」「人生とは二度と通ることのない道を歩むこと」とこの二つの言葉を私は何度も反芻し、心に刻み込みました。

来場された方の中には、先生の教員時代の教え子の方や、絵本の愛読者の方など、先生を直接に聞きに来られた方がたくさんいらっしゃいました。また、今回は講演に先立ち、先生のデビュー作である「しまふくろうのみずみ」をスクリーンに映し、読み聞かせを行いました。先生の作品を知らなかった人にも、手島ワールドを堪能してもらえたと思います。

休憩時間には、フェスティバル恒例の「コミュニケーションカフェ」で「皆さんのコーナー」でくつろいでいただきました。

フェスティバル後半は、会員による活動発表の時間です。はじめに、「江別認知症の人の家族を支える会」の方のお話があり、いま問題になっていることについて詳しく発表していただきました。誰しも家族が認知症になるやもしれない、身近な問題として困ったときは相談できるところがある、という話を認識しました。続いての「江北まちづくり会」の発表では、江別郊外の広大な農



村と市街地の人々を結び様々なイベントを精力的にされている様子が伝わり、時間が足りないくらいだったお話しいただきました。

最後はフェスティバル常連の「江別ヒップホップダンススクールD」魂(だんすたましい)さんが生き生きと踊り、会場いっぱい元気な声が上がりました。閉会は山副会長の挨拶で、充実の日に終了しました。お越しいただいた皆さん、ありがとうございました。

20周年記念講演 『ふるさとと人生』 手島圭三郎氏

江別市生涯学習推進協議会
会長 谷川 幸雄

当日は「ふるさとと人生」というテーマのもと、手島先生が子どもの頃に育ったオホーツク管内のふるさとが、その後の人生や画家としての生き方にどれだけ大きな影響を与えているかについてお話ししていただきました。ここでは、講演のほんの一部ではありますが、内容をご紹介します。

＜講演要旨＞

私は昭和10年生まれですが、父は国鉄職員で、転勤に伴い7回引越をしました。引越し先は、農村地域が3回、漁村地域(オホーツク海)が3回で、もうひとつは寂しい山の中でした。

【山の中のお話】

山の中はトドマツ、エゾマツに覆われ、セミやキリギリスの音が聞こえます。線路は単線であり、山を登って下りて行きます。列車のすれ違い場所では、札幌や函館に向かう急行列車が臨時停車することがあり、そのとき、まちは列車の光に照らされて明るくなり、華やかに見えます。やがてすれ違いの列車が汽笛を鳴らし、山を下っていくと、辺りが静かになりフクロウの音が低く聞こえてきます。そんな情景の中にある鉄道官舎での生活でした。

このような雄大な自然の中で野生の動物とともに生きてきたことが、私を培ってくれたと思っています。そしてこのころから、将来、北海道の自然と動物を中心とした絵本を作る宿命におかされていたのだと思います。

＜講師の紹介＞

手島先生は、昭和32年に学芸大学札幌分校をご卒業後、石狩管内の中学校教員として20年間奉職され、昭和52年から画家・絵本作家として独立、現在まで34冊を刊行されています。

昭和57年に「しまふくろうのみずみ」で絵本にっぽん賞をはじめ数々の賞に輝き、昭和61年に発表した「きたきつねのゆめ」では、イタリア・ボローニャ国際図書展グラフィック賞を受賞されました。平成4年にはニューヨーク国際地球サミットポスターを制作するなど、世界を舞台にご活躍されています。

＜絵本について＞

オホーツク海に関すること、私の心の中には一枚の絵があります。それは引越しの情景で、私たち4人兄弟姉妹が、列車の窓を開けオホーツクの海を眺めている絵です。その絵は、年々歳を取るほど美しい絵として輝いています。

【絵本について】

私は小学校に入る前から軍艦や飛行機の絵を描いていました。小学三年のころ、当時の先生が兄や姉に「弟は必ず画家になる、と親に言いなさい」と言いました。それから私は、将来自分は画家になるのだと、ずっと希望を持ち続けていました。

高校卒業後は札幌の学芸大学に進学しました。その後は教員となり、北海道の自然と動物をテーマにした絵を描いていました。そして絵を出品したり個展を開くうちに、東京の出版社から声がかかり、「しまふくろうのみずみ」で画家としてデビューしました。

絵本を必要とする幼稚園・小学生のお母さんにお話しする際は、「お金や物がなければ幸せを感じられない人間だけにはな

当日の様子をご覧ください！

当協議会のホームページでは、フェスティバルと20周年記念講演の当日の様子を動画で公開しています。興味のある方はぜひご覧ください！

また、希望される方には無料でDVDの配布も行っています。DVDをご希望の方は、郵送先の住所と名前、連絡先の電話番号を明記の上、FAX、E-mail等により下記事務局までご連絡ください。



○ ホームページURL
<http://www.e-lalala.org/>

【連絡先】
〒067-0074 江別市高砂町24番地の6
江別市生涯学習推進協議会事務局
(教育委員会 生涯学習課生涯学習係)
TEL : 011-381-1062 / FAX : 011-382-3434
E-mail : shogaigakushu@city.ebetsu.lg.jp

講演収録集について

講演のより詳しい内容については、当協議会が発行する講演収録集に掲載します。この収録集には、9月に実施した「生涯学習リレー講座」についても掲載しますので、発行の際はぜひご一読ください。収録集は、3~4月ごろ、公民館や情報図書館などの施設に設置予定です。



てくれないでほしい」と、いつも話しています。それが、絵本を作っている私の願いです。
人生は限りなく美しく、そして幸せなものであります。それを発見できるのは、皆さんの持つ感性です。

支援事業終了報告

当協議会では、会員が行う事業に対し支援を行う支援事業を実施しました。ここでは、平成27年度に支援した団体の活動についてご紹介いたします。

江別よいこまついふえ

江別まことええ&北海道情報大学
代表 柏木 真紀子

江別市生涯学習推進協議会からの支援を受け、茨城県神栖市の「かみす舞つちやげ祭り」に参加してきました。この祭りは、今年で6年目を迎えるに加え、神栖市市制施行10周年記念ともタイアップして一段と盛大な大会となりました。

まことええはこの祭りに過去にも参加させていただいており、空港に降り立った途端に衣装に着替え滑走路を背に演舞したり、大雨の中、北海道3チーム合同でお互いの演舞曲を踊り合ったりしました。また、衣装から演舞まで、まことええをお手本にチーム作りをしていた茨城県のチームと対面したことも、真似される嬉しさを味わった出来事でした。

今年の祭りでは、2015年チーム曲「心をつないで」はもちろん、「江別よいこまついふえ」という歌詞から始まり、ヤツメウナギ、レンガ、緑豊かな大地などの江別の特色を紹介する「江別まことええ総踊り曲」を2日間の祭りで何十回も踊って、江別をPRしてきました。

江別市民の皆様からの応援が何よりの力となります。2016年のYOSAKOIソーラン祭りや、それ以降の活動でも、より一層の熱い応援をどうぞよろしくお願いいたします。



第11回 土佐市・江別市交流文化祭

江別市文化協会
副理事長 村上 勇造

3年ぶりの土佐市との文化交流である第11回土佐市江別市文化交流のため、平成27年10月3日、4日に土佐市を訪問しました。

当文化協会からは、丸山副理事長訪問団長のほか、役員1名と、舞台出演者として日舞6名、江別にわか6名の計14名が参加。高知空港で土佐市文化協会役員・土佐市職員の歓迎を受けた後、文化祭会場の「グランディ



ル」にて土佐市の文化祭を鑑賞しました。引き続き開かれた交流パーティーでも大歓迎を受けました。

4日は本番の交流会です。1部は土佐市文化協会各ジャンルの発表で、2部は江別市文化協会の発表となります。日舞4曲、江別にわか1幕・日舞6曲の順で披露し、約1時間を熱演。終了後は、土佐市民から熱烈な大拍手をいただきました。その後は土佐市文化協会との親睦交流会に参加。心からの和気あいあいですばらしい交流会ができました。

5日、宿泊ホテル前にて土佐市文化協会役員・土佐市職員多数の心温まるお見送りを受け、江別市での今回の文化交流祭を約束し、高知空港まで送っていただき帰江しました。

「すこやかに輝きつづけるために」

講演と落語会
江別演劇鑑賞会

平成27年7月30、31日の2日間、わたって、大塚・野幌の2公民館で、健康と笑いをテーマに講演会を開催しました。

講師は、大手企業勤務を経て北海道大学に入学し、医学博士學位を取得した佐藤徹郎氏です。佐藤氏は、現在、札幌看護学校他で講師を務められ、また素人落語家としても活動されています。

「すこやかに輝きつづけるために」を主題として、30日はお話の聞き上手、31日は「思いを相手に伝える、説得上手」という講演をしていただきました。講演の後はガラッと変わり、着物に着替えた佐藤さんが、高座名・鳳亭老射手(ほつていおいて)として、1日目は「転宅」、2日目は「親子酒を」演じていただきました。

佐藤さんは、健康に輝き続けるための十六ヶ条を作成し、資料として配ってくださりましたが、その部を紹介いたします。・初老期までは栄養とカロリーを考えて、70歳を過ぎたらおいしくものを食べる。・初老期までは体重を抑え気味、70歳を過ぎたら太り気味に維持。・知的な活動(crossword や新聞への投稿、演劇を観るなど文化に触れる)や、社会や他人に貢献するなどし、よい人間関係を築く。

参加された皆さんからは、お話を聴き元気になった、今後の生活の参考にしたいとの感想がありました。また落語も楽しく、登場人物を見事に演じる佐藤さんに会場は沸きました。



生涯学習リレー講座

9月に3週にわたって実施した「生涯学習リレー講座」を受講した方の声をご紹介します。

【第1回】

『野幌屯田兵村130年のあゆみ』
講師 旧野幌屯田兵村財産審議会 委員 木村 弘 氏

北海道開拓に大きな力となった「野幌屯田兵」。野幌に住む者としてその開拓の歴史を勉強できた事に、大いに満足しています。木村様の、先祖からの生き方をくわしく調べ受け継いでいく姿勢に、日本人としての生き方を感じました。

生涯学習は初めての経験ですが、良いお話を聞く事が出来ました。本当に先人がいらっしやした事で今の私たちが存在するのだと思います。残り少ない人生ですが、私の出来る範囲で頑張りたいと思いました。ありがとうございました。

江別子ども劇場 佐藤ひとみ

江別子ども劇場は、親子で優れた舞台芸術に触れ、様々な体験を通して親子ともに育ち合う場です。地域に根差した活動を行っており、来年創立40周年を迎えます。

今回支援していただいた事業は、札幌在住のプロ演奏家による、0歳のお子さんから楽しめる「マリンバを主体としたコンサート」です。子どもを惹きつける工夫がいっぱいで、子育て中のお母さんもおもしろく感じる内容になっています。ぜひご家族みんなでお試しください。

今日、原始林の深い歴史をたくさん聞いて、またいつか原始林を訪れたとき、林の中から澄み渡って伝わる「つづのすべ」に今までの以上の愛着を感じるだろうと、ワクワクしています！

「無名の女性たちの力で今の野幌が」の言葉、心に強く響いています。

野幌原始林の生い立ち、北越殖民社の関矢氏の並々ならぬ苦勞、努力等により、今の江別がある事をつくづく考えさせ

【第2回】

『原始林は「拓かれて」残された』
講師 学校法人酪農学園 学園長 仙北 富志和 氏

内容は豊富で大変勉強になりました。江別の開拓という北越殖民社の話ばかり聞いていたので、今回の野幌、江別の屯田兵村の歴史を知り、非常に感銘を受けました。屯田兵制度が終わったあとの子孫の行く末なども知りたかったです。

江別市生涯学習推進協議会 会長 田村 邦雄 氏

屯田兵に関する講演会でもあまり触れられないことのない細部にわたるお話があり、江別のまちづくりの初期の詳しいお話が聞けて良かったです。

江別市生涯学習推進協議会 副会長 田村 邦雄 氏

「原始林は「拓かれて」残された」

原始林は「拓かれて」残された

原始林は「拓かれて」残された

原始林は「拓かれて」残された

原始林は「拓かれて」残された

原始林は「拓かれて」残された

原始林は「拓かれて」残された

原始林は「拓かれて」残された

原始林は「拓かれて」残された

原始林は「拓かれて」残された

原始林は「拓かれて」残された

原始林は「拓かれて」残された

原始林は「拓かれて」残された

原始林は「拓かれて」残された

原始林は「拓かれて」残された

原始林は「拓かれて」残された

アンケート調査を行いました

当協議会では、20年という節目の年に合わせ、会員に対し協議会運営に関するアンケート調査を実施しました。この結果をもとに、今後10年、20年のあり方を検討し、より良い協議会を皆さんと作り上げていきたいと考えております。ご協力のほどよろしくお願いいたします。

アンケート調査を行いました

アンケート調査を行いました

アンケート調査を行いました

アンケート調査を行いました

アンケート調査を行いました

アンケート調査を行いました

アンケート調査を行いました

アンケート調査を行いました

アンケート調査を行いました

アンケート調査を行いました

アンケート調査を行いました

アンケート調査を行いました

アンケート調査を行いました

アンケート調査を行いました

アンケート調査を行いました

アンケート調査を行いました

アンケート調査を行いました

アンケート調査を行いました

アンケート調査を行いました

- ### これからのイベント
- ◆江別美術協会
 - 春季小品展

小品の絵画を展示します。
日時/2016年3月15日(火)~20日(日)
場所/野幌公民館ギャラリー
 - ◆江別市女性団体協議会
 - 密閉式生ごみ堆肥化講習会

家庭から出る生ごみで堆肥を作る講習会です。
日時/2016年3月17日(木)
10:00~11:30
場所/野幌公民館
講師/北海道EM普及協会 細川 義治
ハビタットのつぼろ 蝦名 多美夫
 - ◆3B体操江別サークル
 - 3B体操体験会 in コミセンまつり

コミュニティセンターで行われる「コミセンまつり」の中で、3B体操の体験会を行います。
日時/2016年4月16日(土)
場所/コミュニティセンター
 - ◆江別子ども劇場
 - よい子の味方 怪獣ママゴン~よろず劇場とんがらし

親子で人形劇を楽しみます。
日時/2016年4月24日(日) 14:00~
場所/野幌公民館
 - ◆江別演劇鑑賞会
 - 劇団前進座公演「肩~いくす屋でござい」

江戸の暮らしの解説付きの楽しい舞台です。
日時/2016年6月9日(木) 18:45~
場所/えぼあホール
出演/柳生啓介ほか

What? アメリカの手話 & 日本の手話

WHITE

白色

広げた指を胸から隠しながら5本の指先を合わせます。

《編集後記》
前号の20周年記念号はご覧いただけましたか?今までの当協議会の活動がよくご理解いただけたのではないのでしょうか。75号はいかがでしょうか。これからも、皆様のご協力をいただきながら歩みを進めてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

広報委員 松山 和子